

9月の最終日、カメラをさげ近くを散歩した時の報告です



### ■ 大きな「金木犀」(きんもくせい)

しっかり手入れされた樹形を誇っています。門柱の脇に植えられ、かなり離れた所から、風におくられた、「甘く強い芳香」に魅せられます。

この時期、いたる所に植えられた「きんもくせい」が、町中をこの香りで包み込みます。



「きんもくせい」の小さな花々です。無数の花々が、一斉に良い香りを放ちます。



### ■ 水 田

刈り入れを待っている稲穂に出合います。穂が頭を深々と下げています。台風の被害はありませんでした。

農家の方に作柄を尋ねると「夏の日差しが今一だったが、収量は昨年並みか、上回ると思うよ」との返事。

美味しいご飯が沢山食べられそうです。

品種は、「きぬひかり」が主流です。



◆ 変わった風景です。  
中央にあぜ道があり、道路側が刈り取られ、空いたところに稲穂が積み重ねられています。しかも、左右対称となっています。  
水田二枚分の映像です。一枚の面積は一反分、耕地整理でこの形になりました。

昨年も同じような方法が

とられていました。業者はここから刈り取りを行う、コンバインを入れます。

遠くに、高麗山から湘南平への尾根が見えます。その向こうは大磯、湘南の海です。



◆ 早めに刈り取られました。  
黒くなっている手前の小山は、もみ殻です。火を入れ燃やしています。  
機械の力は、稲の刈り取り、脱穀（籾粒を稲穂から取り外す・米粒からもみ殻を取り外す）を水田の上で行いました。おコメは「ぬか」の付いた玄米になります。保存を効かせます。

稲が立っている他の水田は、10月になってからの作業になります。



◆ 稲を水田で乾燥させます（1）

刈り取った稲穂を束ね、数束を写真のようにまとめ、地面に立てます。立て方は、風通しを良く、乾燥するようにしています。

雲の掛った丹沢・大山と小田原厚木道路の跨線橋です。橋の基礎工事で、地下から金目川の石が掘り出されました。ここを金目川が流れていた証拠です。



◆ 稲を水田で乾燥させます（2）

前出の写真は稲穂を上にして、田に直接立てていました。ここでは、竹で組んだ棚に稲穂を逆さにかけて乾燥させます。

ご夫婦で田植えも手で、刈り取りも手で、稲を掛けるのも手で行っています。

養分が先の稲穂に集中し、よりおいしく、栄養に富むと教わりました。

■ 菜園に足を伸ばしました。



◆ 仲間の畑です。

「チンゲンサイ」「イチゴ」「レタス」その先は、これから植える準備中。

「イチゴ」は露地栽培ですが、毎年、赤い実を付けます。まだ先になりますが、畑の赤は鳥に狙われやすいようです。

切り刻んだ「わら」が見えます。土に還り、肥料分となります。



白菜を比べてください。左側は不揃い、右側は確実に根付き成長しています。不揃いであっても、芯がしっかりしてきました。右側のようにするには時間の問題です。

白菜は、鍋物、漬物に欠かせません。





クレーターのよう中央には、「ブロッコリー」を移植しました。まだ根ついていないので、水をやります。水が流れ出ないように円形に掘り込んでいます。

農業専門家は「白菜」「ブロッコリー」の“あまりの水やりは不要だ”と云います。周辺の農家は広い畑に「じよろ」で水をやることはありません。

となると、クレーターは無意味かな。でも、細く短い根は気になってしかたが

ありません。 菜園を何年か経験しても、水をやってしまいます。



■ 農家のダイコン栽培です。

5列に植えられています。成長が一番左側が早いです。右に順次遅れています。一番右側はまだ双葉です。

同時に種をまくと、収穫も同時になります。一気に大量のダイコンの山が築かれてしまいます。

「供給過剰・価格低下」経済原則です。

一列に何本あるか数えていませんが、5列に分け、時期をずらして収穫です。

よく見ると、6列目もありかな？



■ 通称「花菜ガーデン」を一巡りするの「ぶらり散歩」のコースです。

入園口にある「花のシンボルタワー」です。季節を美しく飾る花々がしつらえられます。

間もなく、秋のローズフェスティバルが始まり、ここにもぎわいを増すことと思います。

◆ いつもと違う植栽に出会いましたので紹介いたします。



入園口と道路を挟んだ向かいに標識の付いたコーナーがあります。

写真のように三角形のブロックが並んでいます。

標識には「初級園芸福祉士養成講座、参加者の皆さまにて製作」と記されています。過日行なわれた講座受講生達の作品です。



それぞれのテーマを掲げ、作品が作られました。初めての事です。新鮮な雰囲気を感じられます。

作品を枯らすわけにはいきません。「花菜ガーデン」の担当者が丹念に散水を続けます。

園内の植物管理は徹底し、入園者を楽しませてくれます。